

# 2020年 おやじの山旅 東北(北部)の山

(2020年10月16日～10月25日)



岩手山登頂 2038m (10月20日10時10分)

## 1.趣旨

長年デンソー山岳部で活動した仲間達が定年を迎えた。  
その仲間達で2016年におやじの山旅を立ち上げた。  
かけがえのない仲間達でこれからも山を楽しみたい。(その5年目)

## 2.コンセプト

山を通して自然・郷土料理、現地の人とのふれあいを楽しむ。

## 3.計画

山城・山名 東北(北部)の山 7座  
(岩木山、八甲田山、八幡平、岩手山、秋田駒ヶ岳、森吉山、栗駒山)  
期間 2020年10月16(金)～10月25日(日) 10日間

### 参加者と役割分担

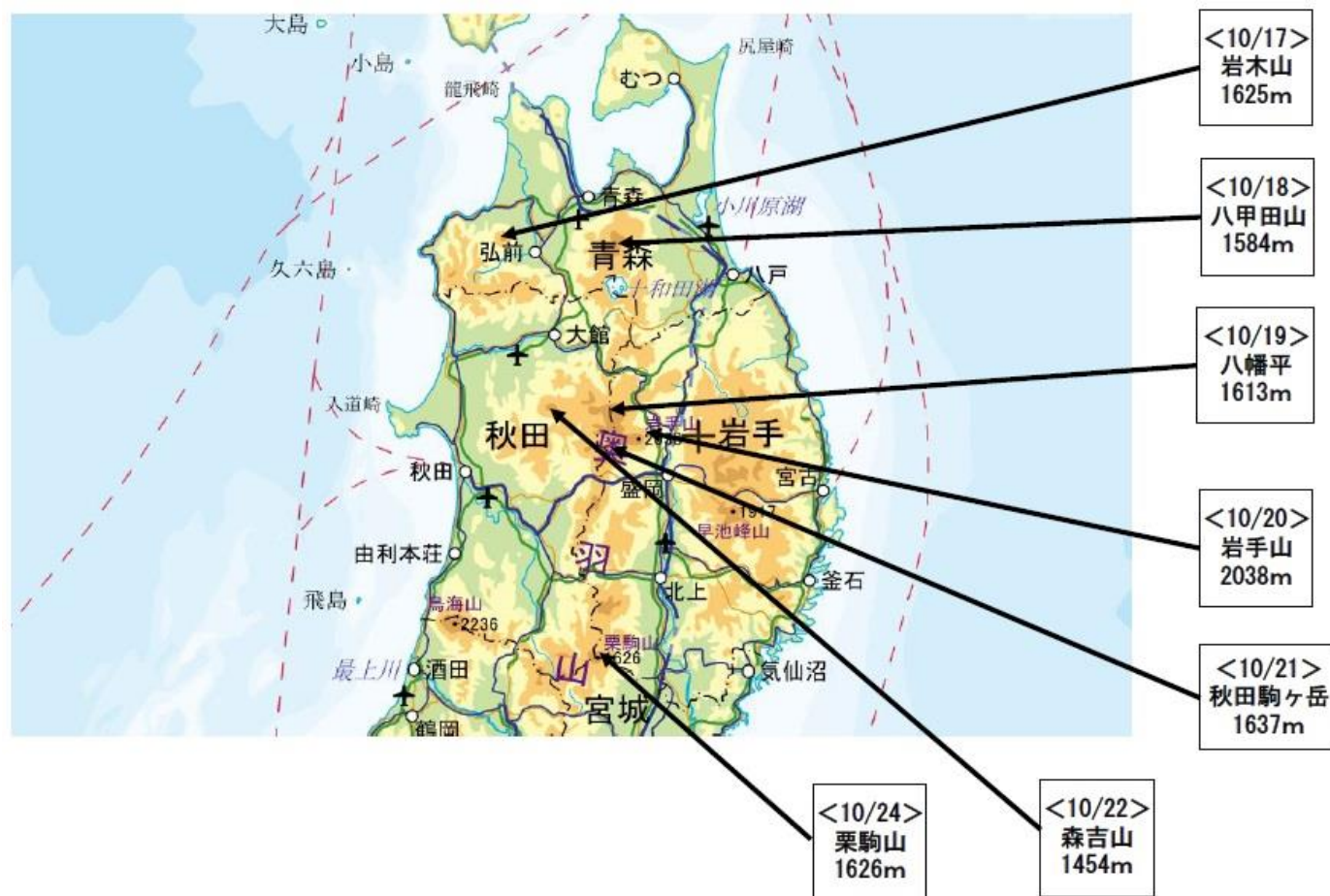
No.	氏名	役割	登山担当リーダー	保険	生年月日	年齢	血液
1	金子 清	CL・渉外	岩手山	登山S	1955/5/10	65	A
2	藤田 勝啓	SL・装備	森吉山	登山S	1953/6/6	67	B
3	町田 修	SL・地形・記録	岩木山	登山C	1955/9/5	65	B
4	津田 廣一	記録(正)	栗駒山	登山S	1953/6/20	67	O
5	津田 利栄子	(ゲスト)		ハイ1	1955/8/11	65	B
6	竹内 幹雄	気象・写真	八甲田山	登山S	1951/10/26	68	O
7	天野 広	会計	秋田駒ヶ岳	登山B	1955/4/25	65	AB
8	上田 正博	記録(副)	八幡平	ハイ1	1950/5/23	70	A
9	根芝 亮子	特別参加		日山協 登山	1988/4/21	32	AB
10	松浦 英樹	(ゲスト)		モンベル	1973/1/26	47	B

・行き 10/16:フジドリームエアライン FDA363 小牧空港 11:00～青森空港 12:20  
・帰り 10/25:IBEX エアラインズ ANA3124 仙台空港 12:40～中部国際空港 13:55

スケジュール(概要)

No.	2020年 月/日	山名	標高 (m)	登山コース	行動 時間(h)	担当	宿泊先
1	10/16(金)	(移動)		名古屋/小牧空港～青森空港～嶽温泉		金子	嶽温泉 小島旅館
2	10/17(土)	岩木山	1625	嶽温泉～岩木山八合目～岩木山～嶽温泉	7:00	町田	酸ヶ湯温泉旅館
3	10/18(日)	八甲田山	1584	酸ヶ湯温泉～仙人岱～八甲田大岳 ～大岳避難小屋～毛無岱湿原～酸ヶ湯温泉	5:40	竹内	八幡平温泉郷 いこいの村岩手
4	10/19(月)	八幡平	1613	黒谷地湿原～熊の泉～八幡平(往復)	3:30	上田	
5	10/20(火)	岩手山	2038	焼走りP～ツルハシノ分れ～薬師岳(往復)	8:00	金子	水沢温泉 白い星
6	10/21(水)	秋田駒ヶ岳	1637	駒ヶ岳八合目～男岳～男女岳～横岳 ～焼森～駒ヶ岳八合目	4:30	天野	阿仁の森 ぶなホテル
7	10/22(木)	森吉山	1454	ブナ帯キャンプ場～石森～森吉山(往復)	5:00	藤田	
8	10/23(金)	(移動・観光)		阿仁～平泉中尊寺観光～栗駒高原温泉郷		金子	
9	10/24(土)	栗駒山	1626	いわかがみ平～東栗駒山～栗駒山 ～いわかがみ平	6:20	津田	ハイルザーム栗駒
10	10/25(日)	(移動)		土湯温泉～仙台空港～中部国際空港		金子	

## 東北（北部） 登る山(7座)





## 4. 思い出の1コマ、1コマ

10月16日 今年2回目の東北へ(小牧空港→青森空港) 嶽温泉の名湯と豪華食事が待っていた



FDA363へ搭乗



岩木山がお出迎え



青森リンゴちゃんの歓迎



10月17日 岩木山 とうとう初日雨のジンクスを破ったぞ！



恒例のラジオ体操(出発前)



1級登山道をハイピッチで



休憩は笑顔で



紅葉の急登を登れば



山頂のお社でピース



下山開始すると晴れてきた



見事な紅葉



岩木山(宿へ移動中)

10月18日 八甲田山 豪華な絨毯を敷いた様な高原(下毛無岱)が見えた！



酸ヶ湯温泉前の駐車場



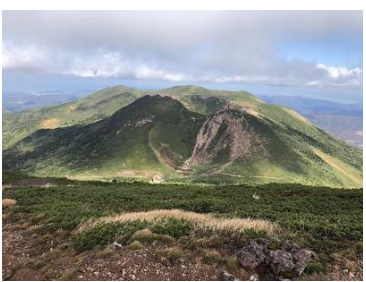
紅葉は綺麗だね～



仙人岱(休憩地の風景)



喜びポーズの2人



赤倉岳方向の眺望(山頂下り)



上毛無岱へ向かう木道



下毛無岱を望む



紅葉のトンネルを歩く



10月19日 八幡平 曇り空で寒～いハイキング



黒谷地湿原(熊の泉)で何を話す？

あ～曇り空

源太森 少し青空が・・・

八幡沼 皆パチリ



ガマ沼



もう山頂です



メガネ沼の一つ



謎の凹地 (原因不明)

10月20日 岩手山 快晴、ルンルンの8h登山、でもお疲れ～



登山口 (少々薄暗いかな？)



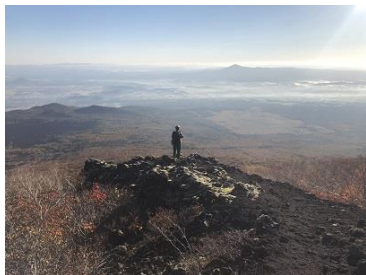
登山届提出



紅葉の路を登る



朝食代わりに弁当



姫神山を望む(第1火口)



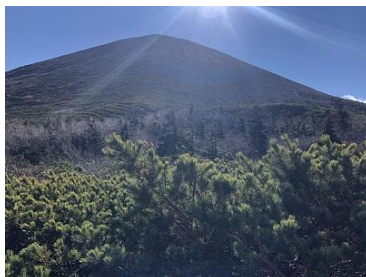
岩手山頂をバックに(第1火口)



茶臼岳の岩峰



平笠不動避難小屋で1本



平笠不動から山頂を望む



岩手山頂



お鉢巡りで見えた火口



登頂後、お疲れ～



10月21日 秋田駒ヶ岳 眺望抜群の山行だった



予定より早く宿を出発



片倉岳展望台からの男女岳



田沢湖撮影かな？



木道を歩き、阿弥陀池へ



男岳登頂だ！



男女岳から阿弥陀池方向



横岳手前から女岳・子岳



焼森へ向かう

10月22日 森吉山 紅葉は少し遅かった？



阿仁の宿を出発



阿仁ゴンドラ 楽チンだ〜



焼森から見た男女岳と火口



乳頭温泉でお土産買った



森吉へ木道は続く



避難小屋で1本



初登頂の2人



石森から見た森吉山



石森で1本



山頂駅まで降りてきた



安の滝  
(日本の滝百選2位)  
滝壺まで降りた  
天野さん、分かりますか？



10月23日 移動日 中尊寺観光（雨；登山でなくてよかった 事故渋滞；何とか、観光できてよかった）



移動中の車窓から



参道



中尊寺を観光



黄金の御仏様

10月24日 栗駒山 強風、カッパを羽織って頑張った



宿の窓からの紅葉



歩き出す頃は青空も



休憩も寒いよ～



目指す頂上



山頂の霜付の塔



お社



霧氷



山頂を後にし、東栗駒へ



徐々に天候悪化



風の緩むのを待つ



慎重に100mの沢を降る



下山後靴を洗う



山旅最後の豪華食事

10月25日 移動（仙台空港からセントレア空港へ）



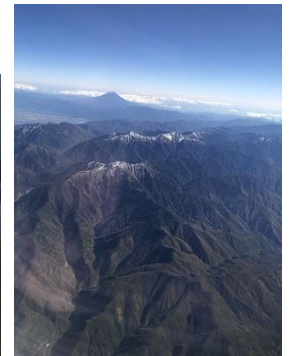
搭乗する飛行機（IBEXエアラインズ機）



離陸直後、虹が見える



窓に富士山が見えた



富士と南アルプス



## 5. 行動記録

10/17 (土) 岩木山 曇り時々晴れ

■ルート (嶽温泉登山口⇄巨木の森⇄八合目分岐⇄リフト分岐⇄岩木山 1625m)



参加メンバー

CL ;	町田	修
SL ;	金子	清
	津田	廣一
	津田	利栄子
	竹内	幹雄
	藤田	勝啓
	天野	広
	上田	正博
	根芝	亮子
	松浦	英樹

### ■行動記録 (行動時間 6時間10分)

8:00 宿発(小島旅館)→ 8:20 登山口発 → 9:10 一本(巨木の森分岐) → 10:00 ブナ林 → 11:00 リフト乗り → 12:00 岩木山着 → 13:20 リフト乗り場 → 14:00 ブナ林 → 14:30 登山口着

津軽平野から望む岩木山はどっしりと座り、おらが山「お岩木山」の存在感が大きい。前日、麓の宿へ向かう車中から望むと、リンゴの木を背景に中腹辺りが赤く染まっている。紅葉前線に間に合ったようだ。

さて、朝一で松浦君と根芝さんが合流する。宿の大将曰く「登山道は雨水にえぐられ滑りやすく、歩きにくい」とのコメントだった。が、さにあらず綺麗に整備され、歩きやすい。400m/hのスピードで快適にピッチを稼ぐ。昨日見た中腹の紅葉はブナ林の紅葉だった。登山道から見渡す林の大方がブナ林だ。そして、大きい。豪雪の雪にも負けず、天に向け枝を伸ばしている。素晴らしい光景に息をのむ。



8合目分岐を過ぎてしばらく登ると車の音が聞こえる。車道に出たようだ。リフト乗り場の駐車場で防寒対策をし、山頂に向かう。

生憎山頂はガスの中、時折ガスの切れ目に日が差すが吹っ切れない。早々に記念写真を撮り下山する。

8合目まで下ると、少し視界が開け、紅葉の山肌を楽しんだ。天気が良ければ西側に白神山地が見え、その向こうに日本海が望めるはずだが、今回はこれで良しとしよう。これまでのおやじの山旅「初日の雨ジंकス」は何

とかまぬがれた。

下山後、グランドハイエースに揺られ、「シーハイルの歌」♪岩木のおろしが 吹くなら吹けよ 山からやまへと われらは走る・・・♪を歌いながら、明日の八甲田山の宿、酸ヶ湯へ向かう。 (町田)





10/18 (日) 八甲田山 晴れ

■ルート 酸ヶ湯温泉→仙人岱→八甲田大岳→上毛無岱休憩所  
→城ヶ倉分岐→酸ヶ湯温泉→八幡平温泉郷

■行動 (行動時間 5 時間 18 分)

8 : 10 登山口→9 : 40 仙人岱→10 : 37 八甲田大岳

→11 : 09 大岳避難小屋→12 : 10 毛無岱湿原→13 : 28 登山口

酸ヶ湯温泉・宿を出発。すぐ横にある登山道を進み一旦車道に出て登山口に向かう。途中、登山者用の大駐車場もあり、この山の人気をうかがわせる。付近の木々は紅葉が進み、今が見頃だ。この先にある「八甲田神社登山口」から登る。高度が上がるにつれて景色が広がり南に硫黄岳が見えてくる。沢を渡り岩がゴロゴロしている所を進み、平坦な仙人岱で休憩する。ここから1ピッチで「八甲田・大岳山頂」に到着したが山頂付近はガスがかかって展望が効かない。山頂は寒いので集合写真を撮って早々に下山、「大岳鞍部避難小屋」で休憩する。ここは、赤倉岳と上毛無岱への分岐点で各方面からの登山者が集まっている。我々はこの先、上毛無岱に向かって木道を進む。辺り一面に草紅葉が広がり秋をしみじみと感じる風景だ。更に下毛無岱に下りる木道の階段から下を見下ろすと池塘群の風景が良い。絶景風景を写真に収める。深田久弥は「これほど美しい高原は滅多にない。豪華な絨毯を敷いた様な……」と記している。下毛無岱湿原で休憩する。ここから先、しばらく進むと毛無岱の展望は終わり樹林帯に入る。黙々と登山道を下ると、やがて周辺は紅葉の木々となり酸ヶ湯温泉が眼下に見えてきた。程なく酸ヶ湯温泉・登山口に下山。そして本日の宿「いこいの村岩手」に車で移動する。(記 竹内)

参加メンバー

CL：竹内幹雄、SL：天野広、  
上田正博、藤田勝啓、金子清、  
町田修、津田廣一、津田利栄子、  
根芝亮子、松浦英樹



登山口



岩がゴロゴロ



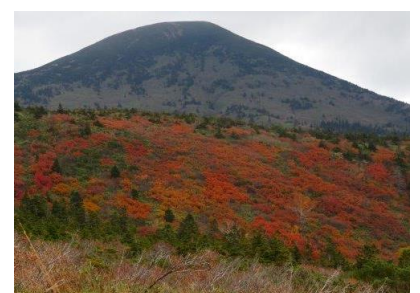
池塘



上毛無岱



下毛無岱



錦繡の屏風



酸ヶ湯温泉



10/19 (月) 八幡平 1,613m 曇り



- 参加メンバー
- CL ; 上田 正博
  - SL ; 天野 広
  - 竹内 幹雄
  - 藤田 勝啓
  - 町田 修
  - 津田 廣一
  - 津田 利栄子
  - 金子 清
  - 松浦英樹
  - 根芝亮子

■ルート (黒谷地湿原駐車場→源太森→避難小屋→八幡平→山頂レストハウス→黒谷地湿原)

■行動 (行動時間 3時間00分)

8:10 宿発→9:15 黒谷地湿原駐車場発→10:15 源太森→10:45 陵雲荘→11:05 八幡平(1,613m)  
→11:30 山頂レストハウス→12:10 山頂レストハウス発→12:50 黒谷地湿原

いこいの村の宿を車で出発して1時間ほどで黒谷地湿原の駐車場に到着した。遠くに、明日登る岩手山が見えるも、頭を隠している。今日の山行は、高度差も160mほどの平坦なコースであり、周りの紅葉や、八幡沼やガマ沼の景色を楽しみながらの山行である。計画も楽で余裕のある山行とした。八幡平山頂も山頂らしくない平たんな場所にあり、拍子抜けの感があった。地元の登山者に6月頃の鏡沼の雪どけが作り出すドラゴンアイの写真を見せてもらって感動した。帰りは、ガスが濃くなり山頂レストハウスからバスで帰ろうとするも、昨日でバスは終了と聞き、時間の節約を選択して、バスロードを40分ほどかけて、黒谷地湿原の駐車場に到着し、いこいの村岩手へ移動した。(記 上田)



八幡平山頂展望台での記念写真



頭を隠した岩手山



草紅葉の道を歩く



八幡沼



濃霧のバスロードを駐車場へ



宿へ移動中に見た紅葉

☺レストハウスの幟



10/20 (火) 岩手山 快晴

■ルート 焼走り駐車場～ツルハシノ分レ～薬師岳～焼走り駐車場  
全行程 14.3km 行動予定 8 時間)



参加メンバー

CL ; 金子	清
SL ; 竹内	幹雄
	藤田 勝啓
	津田 廣一
	町田 修
	天野 広
	上田 正博
	津田 利栄子
	根芝 亮子
	松浦 英樹



岩手山山頂 (薬師岳)

■行動 (行動時間 8 時間 35 分 休憩含む)

4 : 00 起床 5 : 00 いこいの村岩手発→ 5 : 30 焼走り登山口→ 9 : 30 平笠不動避難小屋→10 : 10 岩手山山頂  
—お鉢巡り→11 : 05 下山開始→11 : 30 平笠不動避難小屋→ 14 : 05 焼走り登山口

朝食のおにぎりを受取り早々に宿を出発する。外は暗い。車で 15 分、焼走り登山口に到着。登山準備後、全員でラジオ体操をして出発。紅葉の山道に行く。噴出口跡からの展望が良い。ここから北斜面をトラバースし五合目ツルハシ分かれに着く。平笠不動避難小屋までは急登に行く。小屋でトイレ休憩後、山頂に向かう。山頂外輪山にでると山頂が見える。10 : 10 登頂。天気も良く 360 度の展望を楽しむ。メンバーの頑張りでお鉢巡りに早く着いたのでお鉢巡り (約 30 分) をする。下山開始、登ってきた道を慎重に下る。全員無事に焼走り登山口に到着。下山後、根芝さんを JR 岩手駅まで送り、秋田駒ヶ岳山麓にある田沢湖水沢温泉ペンション白い星へ向かった。(記 : 金子)



山頂外輪山から山頂に向かう



紅葉の山道に行く



平笠不動避難小屋



山頂よりお鉢巡りスタート



10/21 (水) 秋田駒ヶ岳 1,637m 快晴

■ルート (8合目駐車場→男岳→阿弥陀池→男女岳 1,637m→横岳→焼森→8合目駐車場)



参加メンバー

CL ; 天野 広  
SL ; 上田 正博  
竹内 幹雄  
藤田 勝啓  
町田 修  
津田 廣一  
津田 利栄子  
金子 清  
松浦 英樹

■行動 (行動時間 4時間00分)

7:00 宿発 → 7:50 8合目P発 → 9:05 阿弥陀池 → 9:30 男岳 1,623m → 10:20 男女岳 1,637m → 10:40 阿弥陀池 → 11:00 横岳 1,583m → 11:10 焼森 → 11:50 8合目P着 → 乳頭温泉

ペンション白い星の標準朝食時間が6:00からという事で、計画より1時間早く出発できた。柴犬の「ヒロ」に別れを告げ出発する。駐車場までの道路が狭く、大きな対向車が来たらすれ違いに時間が掛かるのではないかと心配するが、マイクロバスとのすれ違いは道幅が広くて助かった。ラジオ体操をして出発する。登山道は良く整備されていて快適だ。天気は快晴で、今回の山旅で登った岩手山、遠くに岩木山、明日の森吉山、田沢湖などを眺めながら行くと阿弥陀池にでる。男岳に向かうとムーミン谷の景色が見える。不思議な景色で上手いこと名付けたなど感心する。女岳からは噴気が出ていて活火山という事を思い出す。男岳山頂で写真を撮り、再び阿弥陀池に向かい池の東にあるトイレで用足しする。男女岳への木段を一登りすると頂上に到着する。素晴らしい景色で、360°のパノラマを満喫し、山座同定をする。北には八甲田山、遙か南には月山やら鳥海山も見える。横岳へ登り返すと、駒ヶ岳の東側は崩落の跡が見えた。焼森から駐車場への道は笹藪が深く退屈だった。到着時間が早かったので乳頭温泉に向かい汗を流した。

(記：天野)



駐車場から駒ヶ岳



ムーミン谷と女岳



男女岳での記念写真



阿弥陀池



男女岳



乳頭温泉の宿



10/22 (木) 森吉山 1454m 曇り

■ルート (山頂駅～石森～避難小屋～森吉山 往復)  
全行程 5km 行動予定 3時間)



■行動 (行動時間 3時間 10分 休憩含む)

6:00 起床 8:20 阿仁の森ぶなホテル→8:50 山麓駅→9:10 山頂駅  
→10:00-10 避難小屋→10:45-55 森吉山→11:25-30 石森→12:20 山頂駅

参加メンバー	
CL	藤田 勝啓
SL	津田 廣一
	金子 清
	町田 修
	天野 広
	上田 正博
	竹内 幹雄
	津田 利栄子



森吉山は品格、歴史、個性という百名山の基準は満たしたが1500m以上という高さの条件で落選したようである。深田久弥は森吉山の頂上に立って「私の歓喜は無限であった・・・」と感想を記している。阿仁ゴンドラからの紅葉観賞は今回の山旅で楽しみにしていた。山麓駅～山頂駅まで20分の空中散歩。

眩しいほどの紅葉、雄大な景色、・・・赤色や黄色のコントラストの美しさは目を楽しませてくれました。山頂駅前でラジオ体操をして出発。山頂付近は広葉樹が少ないのと紅葉が終わった事で寂しい風景だった。曇天の下、ハイカー向けのゆるやかな木道を登る。50分程で避難小屋に着き一本立てる。さらに緩やかに登っていくと初夏にはお花畑になる稚児平。イワカガミの葉の多さが群生地を想像させる。ここから森吉山は目と鼻の先だ。10分で頂上に立つ。集合写真を撮って下山にかかる。

森吉山下山後は「日本の滝百選」で2位に選ばれた中ノ又溪谷(安の滝)の紅葉を見に行った。

落差90m、2段構造になって流れる「安の滝」と紅葉は見応えがあった。

(記：藤田)





栗駒山 10/24 (土) 薄曇り後雨 (一時曇) 風強し

■ルート いわかがみ平→(中央コース)→栗駒山→(東栗駒コース)→東栗駒山→いわかがみ平  
(周回 計画の逆コース)



参加メンバー

CL	津田 廣一
SL	町田 修
	金子 清
	竹内 幹雄
	藤田 勝啓
	天野 広
	上田 正博
	津田 利栄子

■行動 (行動時間 3時間 50分)

8:30 宿発⇒8:45 いわかがみ平P着 8:55 いわかがみ平発→9:45 灌木帯切れる手前1本  
→10:30 栗駒山山頂 (山頂で10分) →(東栗駒山頂も風強く素通り) →12:45 いわかがみ平

露天風呂に、小雨がパラパラ。枝が揺れ風が強そうだ。朝食を食べ宿を出る。登山口Pに着き、準備、ラジオ体操をして歩き出す。天気予報では頂上付近は強風(20m位)。登山コースを東栗駒→中央コースへ変更。状況



次第で、ピストン(途中撤退)も覚悟して出発。カッパを着るも、汗もかかないどころか、寒い。少し登ると、風が進む邪魔をする。足を踏ん張って進むしかない。下山してきた登山者から、「上は雪で寒かったが、霧氷が見えた。」との事。今はまだ青空も見えているが、天気は下り気味。1h弱登り、風をよけて灌木帯が切れる手前で1本。寒く5分位で歩き出す。遮るものがなくなるや、強風にさらされるが、踏ん張って進む。しばらく悪戦苦闘するが、

突然に風が弱まる。“アレ、何で？今がチャンス”と、足に力が入る。時々、風が吹くも強くない。階段を登り切ると頂上。曇りになっており、急いで写真を撮る。霧氷も目に収める。風がほとんどない事から、東栗駒コースで下山を決断。早々に下り始める。東栗駒分岐を過ぎるまでは、快適なハイキング。登山道の向きが変わり尾根上に出ると、猛烈な風が待っていた。登りの時よりも強い。油断すると身体を持っていかれる。強い時には立止まり、風の呼吸を読んで、弱まった時に進む。曇も容赦なく



顔をたたく。痛い。東栗駒もいつの間にか？通過、灌木帯の中に入るや、100m程の沢の渡渉地点に差し掛かる。トップ町田は下っていく。この道が正しい？藤田が記憶等から躊躇、確認しているが、修正図のコメント・標識等から正解と判断。慎重に濡れた巨岩の間を降り切ると、道に出た。小雨の中、一気に登山口へ。無事下山！よかった！ (記：津田)





## 6. 四方山話

### 東北の山旅・今昔

藤田 勝啓

2020 東北の山（北部）は「紅葉と温泉」「美味しい郷土料理と快適な宿」「飛行機と大型ワンボックスカーの移動」「GO TO トラベルと地域共通クーポン」をキーワードに周到な計画と各自の役割分担の下、安全に楽しく実施でき、おやじの山仲間感謝します。

齢を重ねて思うことは「ゆっくり歩こう山と人生」の言葉です。その意味は「ゆっくり歩いて自然に身を置き、心が洗われリフレッシュできる山登りを満喫する。そして人生をゆったりと楽しむ」ことです。

37年前（1983年）の夏（8月8～22日）に早池峰山、八幡平、鳥海山に自転車の旅をしながら登った。名古屋～仙台はフェリーで往復したが、仙台～石巻～気仙沼～釜石～早池峰～盛岡～八幡平～角館～秋田～鳥海山～新庄～大崎～仙台の約900kmは丸石のサイクリング車を漕いだ。

早池峰の砂利道は膝痛と暑さに悩みながら自転車を押して進んだ。八幡平アスピーテライン、鳥海山ブルーラインの登り坂ではオートバイや自家用車にひっきりなしに追い抜かれたが、「流した汗の分だけ充実した旅をしている」と思った。若いからできた旅だった。

当時の旅日記を見ると早池峰山の詩碑（宮沢賢治）が書き記されていた。

おお青く展がるイーハトーボのこどもたち  
グリムやアンデルセンを読んでしまったら  
じぶんでがまのはむばきを編み  
経木の白い帽子を買って  
この底なしの蒼い空気の淵に立つ  
巨きな菓子塔を攀ちよう

### 山旅ハプニング

津田 廣一

旅にハプニングはつきものだ。何が起こるか？分からない。だから、面白いかもしれない。今回の山旅、最大のハプニングは10月23日の移動&観光日に起きた。

阿仁のブナホテルを、朝食をゆっくりと頂いて出発。田沢湖を過ぎるまでは順調。10人乗りのハイエース、運転を町田さんに委ね、残りの7人は安心してワイワイガヤガヤと雑談に花を咲かせたり、うつらうつらしたり。

秋田街道（46号線）へ入り盛岡ICへ向かって走りだしたところで、急に渋滞が発生。トンネル手前の信号が赤となり、トンネル内侵入禁止表示となった。信号が青へ変わり、数台づつ車がトンネルへ入っていくが、すぐに止まってしまう。我慢して小さなトンネルを2つか、3つ抜ける。反対車線の車は、たまに1台が通過していくだけだ。天野さんが、スマホで状況を調査して「事故では？」と。車がほとんど動かないので、藤田さんが「様子を見てくる」と、下車して先のトンネルの方へ向かう。車内で、「このまま渋滞解除を待つか？どこかでUターンして違う道を走るか？」助手席の金子さんと町田さんを中心に検討を進める。仙岩トンネルの手前で、藤田さんをピックアップしてトンネル内での事故を確認。反対車線の車は引き返した車と断定。トンネルへ入る直前でUターンを決断し、田沢湖方面へ引き返し。ロスった時間は30分～1時間位か？田沢湖から大曲ICへ向かい秋田自動車道・東北自動車道を経て、予定より遅れて中尊寺へ。急いで観光して宿へ入り、色々大変な1日が終了した。

\*後日、ネットで調べてみると、仙岩トンネルは心霊スポットだそうで、事故多発地帯との事でした。



## 2020.Oyaji の山旅「ウォーキング雑話」

2020.11.18 町田 修

毎朝、5:30に起きウォーキングに出かける。雨天以外、ほぼ毎日歩く。同行者は妻。約1時間たっぷり汗をかくスピードで歩く。このウォーキングを始めた経緯を少し記述する。妻が左膝を痛め、治療で豊橋在住の「松井五六先生※1」のお宅に通い始めた。その甲斐有って、少しずつ効果が出つつある。最近ではごく普通に市街地を歩くことが出来る。しかし、階段をスムーズに登れない＝山に登れない。先生曰く「奥さんの関節は素晴らしく柔らかく、柔軟性がある。が、如何せん筋肉が少ない」此处を補強せんと治療のスピードが上がらないね、とのコメント。※1 競輪選手を主にケアする接骨医、津田夫婦も定期的に治療している。

筋肉トレーニングはいろいろあるが、膝の強度がネック！そこで始めたのがウォーキング。少しわき道に入るが、都合有って刈谷の会社社宅に住んでいる。生活環境抜群で高浜の家に帰りたくないくらいだ。幸い、会社も退社したので時間もたっぷりある。これもウォーキングを始めた理由の一つだ。この社宅を起点にウォーキングルートを幾つか散策した。たどり着いたのが逢妻川左岸ルート（地図参照）+田んぼの中道。車も通らず、歩車分離（自転車と歩行者）されている。8月ぐらまでこのルートを早足で漫然と歩いていた。此处で変化が起きた。8月末の東北の山旅で、鈴木浩子さんのウォーキングスピーチにヒントを得た。彼女は千葉の自宅から房総の海を見ながら約1時間、起伏のある道を春夏秋冬、猛スピード（6km～7km/h）で歩きぬけていると言う。あのスタイルと山での強さの原点はここに有ったのだ。

早速、妻は早足とスローウォークを折り込み、早朝の逢妻川堤防（Aルート）を気持ちよくウォーキングしている。そして私は鈴木さんに負けないスピード？で（Bルート）を走破している。時々、アドレナリンの分泌がジョギングを促し、小走りになる。そして（D地点）辺りで合流し、6:30ごろ社宅に戻る。このルートでもう一つ気持ちの良い話がある。若い女性がロードレーサー（自転車）で追い抜いていく。毎朝会う（追い抜かれる）、その時「おはようございまーす」と清々しい声で走り抜ける。朝起きは三文の徳。彼女は（Cルート）を4～5周回り、大府方面に帰っていく。

この貴重なウォーキングも11月でおしまいだ。社宅を引っ越し、自宅に戻る。高浜にこんな素晴らしいウォーキングルートはないが、川沿いのルートでも探そうと考えている。来春、来夏には妻も“山デビュー”できるんじゃないかな？たぶん。



社宅



## 7. 参加者の所見と感想

### <金子 CL>

おやじの山旅 5年目を迎えた。

今年は新型コロナの影響で大変厳しい状況の中での山旅となった。全員が「できれば東北の山に登りたい」と意思が強く、新型コロナ感染防止対策に万全を期し今回も実行することにした。

8月に東北の山（南部）の山旅を終え、1ヶ月半余りで10月の東北の山（北部）、岩木山、八甲田山、八幡平、岩手山、秋田駒ヶ岳・森吉山、栗駒山を計画した。

全日程、概ね好天に恵まれ計画通り登ることができた。メンバーは根芝さんが8月の東北の山(南部)に続き参加、計画外では山岳部OBの松浦さんが間近で加わり、総勢10名(内 女性2名)の仲間が集まった。若手メンバーの参加で更に楽しい山旅ができた。参加ありがとう。

全体を通し振り返ってみると、コロナ禍で状況判断が難しい中、各担当が登山コースの確認、宿泊先への情報収集などしっかり事前準備を行いスムーズに行動することができた。また新型コロナ感染防止対策、安全登山に心がけ紅葉の東北の山旅を楽しむことができた。メンバーに感謝したい。

今回、現地での移動手段を10人乗りハイエースグランドキャビン(レンタカー)1台で行った。好評だった。

来年も今年同様しっかりした計画・準備で楽しい山旅を続けていきたいと思う。

### おやじの山旅 履歴

No.	年	期間	山域	主な山（標高）	参加人数
1	2016	6/25～7/3	北海道の山（道央・道南）	羊蹄山（1898m）	13
2	2017	6/24～7/2	北海道の山（道東）	羅臼岳（1660m）	12
3	2018	6/30～7/8	北海道の山（大雪）	トムラウシ山（2141m）	13
4	2019	6/22～6/30	北海道の山（道北）	利尻山（1719m）	13
5	2020	8/22～8/30	東北の山（南部）	磐梯山（1819m）	11
6	2020	10/16～10/25	東北の山（北部）	岩手山（2038m）	10

### <天野 会計担当>

#### 会計

Go To トラベルクーポン券の使用方法をもう少し工夫をすれば良かった。

#### 感想

前半に温泉旅館が重なって、夕食を食べ過ぎになる事が多かった。

ペンション、民宿、ユースホステルなどを間に入れるなど、宿泊施設を工夫すると良いと思う。



<竹内 気象・写真担当>

気象担当 所見

10/23（金）の移動日は雨。その他の日は雨に降られることもなく良い天候に恵まれました。岩木山、八甲田山の頂上付近はガスがかかり冷え込み、景色も見えなかった。栗駒山では頂上付近は冷え込み、にわか雪が降る。

10/16（金）移動日 晴れ



10/17（土）岩木山 曇のち晴れ



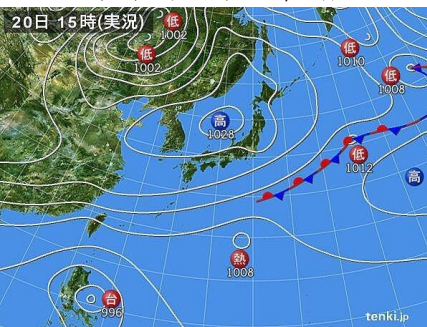
10/18（日）八甲田山 晴れ



10/19（月）八幡平 曇のち晴れ



10/20（火）岩手山 快晴



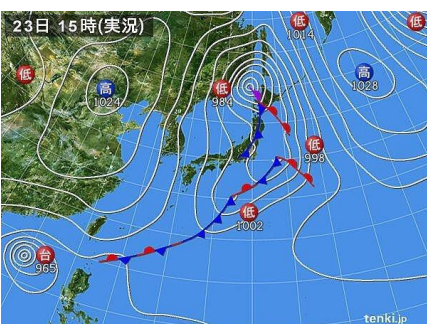
10/21（水）秋田駒ヶ岳 快晴



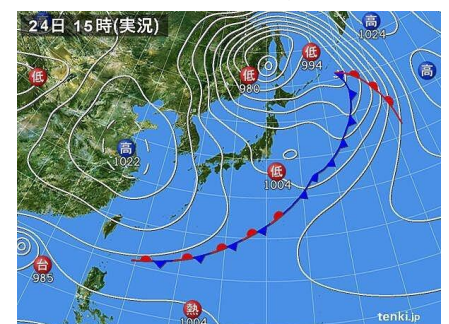
10/22（木）森吉山 曇



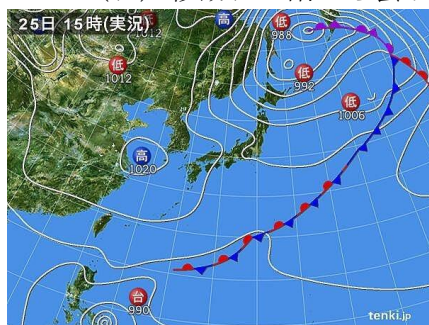
10/23（金）移動日 雨



10/24（土）栗駒山 曇にわか雪



10/25（日）移動日 雨のち曇り



写真担当：竹内

天気の良い中で紅葉を楽しめたので、写真も沢山撮ることができました。

感想：竹内

天候に恵まれ10日間で七座を無理なく登れて良かったです。自分の中では身の丈に合った山でもありました。



### <津田 記録担当>

全体として天候に恵まれ、無事7座を登れました。特に岩手山と秋田駒ヶ岳は、快晴の中の最高の登山で、以前に悪天候下に登ったことに対し、リベンジできたと思います。最後に登った栗駒は、強風と曇と沢下りの、少し難易度の高い山行となりましたが、無事に登って下山出来た事は、本当に良かったと思います。

### <上田 記録副担当>

今回の東北北部の紅葉鑑賞を主とする山行は、好天に恵まれて紅葉の美しさに感動の山旅でした。東北のブナ林は予想以上の大木が生い茂り、その美しさに心を奪われました。八甲田山の下りでは、竹内殿の解説通りの「豪華な絨毯を敷いた様な・・・」感動の景色を目にすることができ、啞然と見とれていました。又、宿の温泉の泉質もいろいろあり、秘境の“鶴の湯”にも入浴でき温泉も十分堪能できました。メンバーの皆さんと同行できたことに感謝します。

### <津田 利栄子さん>

色々大変な状況の中、今年2度目の山旅を無事に終えることができました。皆様の心がけの良さ（強運）のおかげと思います。今回も本当に周りの方々のやさしい心遣いの中、最後まで一緒に山旅ができたこと、とても嬉しく感謝でいっぱいです。次回もご一緒できる様に！！を、目標に体と向き合っていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

### <根芝 亮子さん>

夏に引き続き、秋のおやじの山旅にも参加させて頂きました。皆さん、いつも温かく迎え入れてくださり感謝感謝です。今回は岩木山・八甲田山・八幡平・岩手山にご一緒させて頂きました。印象に残っているのは八甲田山の紅葉と岩手山の360度の眺望！写真撮影が趣味の父に自慢したら、「来年の秋に絶対に行く！」と火をつけてしまいました。樫の木会のおやじ達のような健脚ではないので岩手山は無理でしょうが、八甲田山には連れて行ってあげようと思います。来年のおやじの山旅は北関東に南下するとの事。「那須岳なら任せてください！」と宣言してしまいましたので、来年は相乗りするだけでなく計画から関わらせて頂くかもしれません。今後ともよろしくお願い致します！

### <松浦 英樹さん>

会社を退職し、一週間ほど何処かに旅に出ようと考えていたところに東北山旅の計画書が！それも行った事のない北部の山。このチャンスを逃したら多分行く事はないと思い、参加させてもらいました。どの山も手頃で良い山でしたが、岩手山と秋田駒ヶ岳は晴天に恵まれ、最高の展望と山歩きができ、大満足の旅となりました。これで百名山は60座。これからもチャンスがあれば参加させてください。楽しい旅になりました。ありがとうございました！



参考；会計報告

項目	金額(円)	備考
宿泊費	512,345	
ドリンク代	53,575	
ガソリン	16,072	
レンタカー	157,020	青森空港～嶽温泉～酸ヶ湯温泉～八幡平温泉郷～水沢温泉～阿仁～栗駒温泉～仙台空港(レンタカー1台)
高速	7,940	黒石 IC～八幡平 IC(2320 円)、岩手山 IC～盛岡 IC(710 円)、大曲 IC～平泉前沢 IC(2900 円)、築館 IC～仙台 IC(2010 円)
合計	746,952	

【編集後記】

新型コロナに振り回された1年が過ぎようとしています。3月から自粛が続き、この災禍の年に8月、10月の2回も東北への山旅を敢行できたのは、不思議というより奇跡だ。第2波が減少に転じた8月後半、そして第3波で増加し始める前の10月である。阿仁から栗駒温泉郷へ向かう途中のハプニングも、早く出発して仙岩トンネル内での事故遭遇と比べるとラッキーだったとしか言いようがない。おやじの山旅メンバーの強運や恐るべしだ。今回も総じて天候にも恵まれて岩木山、八甲田、八幡平、岩手山、秋田駒ヶ岳、森吉山、栗駒山の7座を計画通りに登頂出来た。泊まった宿(嶽温泉小島旅館、酸ヶ湯温泉旅館、八幡平温泉郷いこいの村岩手、水沢温泉ペンション白い星、阿仁の森ぶなホテル、栗駒温泉郷ハイルザーム栗駒)も、それぞれに個性のあるいい宿であった(今回はすべて及第点以上だ!)。今回も、現役山岳部員のネッシーや、樫の木会若手の松浦君といった新しいメンバーも加わり、楽しく登って、夜には酒を酌み交わし語り合う事が出来た。今年で10年計画の半分の5年が過ぎた。残りの5年も、精一杯、楽しんでいきたい。